発掘だより　2号

担当：島田

上杉本『洛中洛外図屏風』米沢市（上杉博物館）

なんでここ掘んりょん？

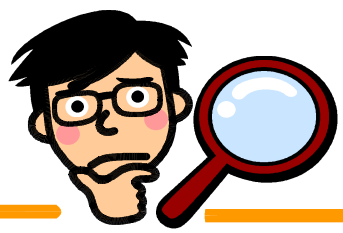
今の調査区は館の周囲をめぐる濠跡と、館の出入り口を確認するための調査区です

上の絵図は「応仁の乱」の後の京都の様子を描いた絵図の一部で、細川管領邸を描いた部分です。当時の上流階級の武士の館がどんなものであったかを知る上で、とても参考になります。この細川管領邸のように、「勝瑞館」にも庭園や会所があったことが発掘調査でわかりました。ところが、館の出入り口がまだ見つかっていません。

濠が周りをめぐっているけれど、出入り口はどうなっているんだろう？橋が架かってたのかな？それとも、そこだけ濠がとぎれていたのかな？入り口には門が建っていたのかな？建っていたとしたら、どんな門かな？

ということで、上の絵図や同じ時期の館跡の調査例、そして明治時代に作られた地籍図という地図を参考にしながら、今の場所を調査することにしました。

といっても、４００年もむかしの門がそのままでてくるはずはありません。出てくるのは地面に残された痕跡、あとです。柱穴・礎石・石・盛り土などを正確に検出して、記録していきます。そして、現地の状況、できあがった図面や過去の調査例をもとに、館の入り口がどんなものであったかを推測していくのです。まるで、犯罪捜査の鑑識のような作業とも言えます。土の色のわずかな違いやほんの小さな土器のかけらさえ見逃さないように．気をつけて調査していきます。



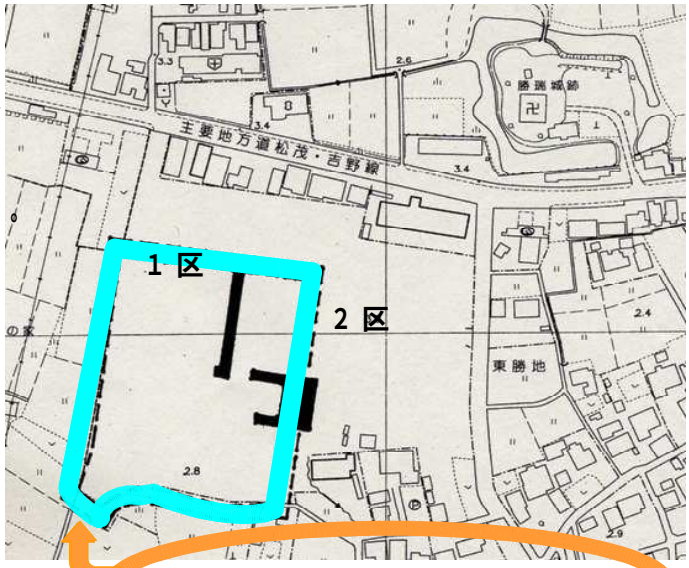
今なにしよんえ？

右図にある１区と２区の調査区で、遺跡とは関係のない地層を機械で掘り下げる作業が完了しました。地表から約１ｍ４０ｃｍの深さです。

次に雨水や地下から湧いてくる水がたまらないように、調査区の周囲に排水用の水を掘っていきました。また、土の堆積がよくわかるように、壁を整えていく作業もあります。

それから、館の人々が地面に残した痕跡を慎重に探していきます。

１区では池の跡が確認できています。



２区では館の東側の濠跡が少しずつ、姿をあらわしてきており、濠の肩を見つける作業を続けています。

この作業が終わったら、濠を掘っていく予定ですが、濠の底まで約４ｍの深さ。いったい底からは何が出てくるのか、とても楽しみです。

調査が始まってから出土しているものは、全部でコンテナ９箱分。「かわらけ」という素焼きのお皿や備前焼の擂り鉢、中国製の染付、目貫（刀を飾っていた金具）、銅銭数枚、小柄（現在のペーパーナイフのようなもの。小刀）などが出土しています。

守護町勝瑞遺跡の
”ホームページ”ができたよ♪

６月１７日にホームページを開設しました。毎日更新して，発掘調査の最新の状況をお知らせしています。

勝瑞遺跡に関するいろんな情報や，連載コラムなど，盛りだくさんのホームページです。ぜひ一度ご覧ください

ＵＲＬは・・・

http://www15.ocn.ne.jp/~ shouzui/

問い合わせ先：藍住町教育委員会　勝瑞発掘現場事務所　TEL ０８８－６４１－３４６６

syugomachishouzui@air.ocn.ne.jp　編集・発行　藍住町教育委員会　2004年8月